

東っ子

H26. 10. 16
甲府市立東小学校
号 外

学校教育目標
「**楽しみがゆきわたる**」
かしこく なかよく たくましく

本年4月22日（火）に実施した全国学力学習状況調査の結果について報告いたします。
調査は小学校6年生が対象です。内容は、①教科に関する問題（国語と算数）と、②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査となっています。さらに教科はA問題・B問題の2種類があり、Aは「知識」に関する問題、Bは「活用」に関する問題となっています。

調査の目的は、児童の学力や学習状況、生活状況等を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにし、今後の学習指導や生活習慣の改善に役立てていくことです。

このたび、本校の分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載して参ります。また、地域の皆様にも、回覧をしていただき、お知らせして参ります。なお、調査に参加した6年生一人一人には、個人票をもとに具体的に課題等について説明していく予定です。よろしく願いいたします。

報告します 「全国学力・学習状況調査の分析結果の概要」

1 本校の状況

国語A・B・算数A・Bのいずれも山梨県の平均正答率を上回っています。全国の平均正答率との比較では、国語Aと算数Aはやや下回るものの、国語Bと算数Bはやや上回るという結果でした。

いずれも全国平均と大きな差はなく、本校は、国語も算数も全国とほぼ同様で、『A問題「知識」に比べ、B問題「活用」に課題がある』状況であると言えます。

一方、本校児童の無回答率は極めて低く、難しい問題に対しても、粘り強く取り組んだ様子が分かります。

【参考】教科別平均正答率（％）

	国語A	国語B	算数A	算数B
全国平均	72.9	55.5	78.1	58.2
県 平均	70.1	55.0	77.0	57.6

2 本校の主な課題

- 国語A
- 漢字「祝う」の書きの正答率が低い。
 - 故事成語（「五十歩百歩」「百聞は一見にしかず」）について、それぞれの正確な意味や使い方の理解が不十分である。
- 国語B
- 司会者や発表者の発言内容を整理してまとめて書くという設問の正答率が低い。
 - 詩の解釈についての理解が不十分である。
- 算数A
- 1/2（二分の一）より大きい分数を選ぶ設問の正答率が低い。
 - 平行四辺形の作図に用いられている図形の約束や性質を理解しているかどうかの設問の正答率が低い。
- 算数B
- 示された情報を基に、条件に合う時間を求める設問や、必要な量と残りの量との大きさを判断してその理由を記述する設問の正答率が低い。
 - 示された情報を解釈して基準量的小数倍の長さの図を選ぶ設問や、小数倍の長さの求め方を記述する設問の正答率が低い。

3 教科における主な改善点

- 国 語
- 漢字の書き取りについて、ミニテストを定期的実施したり、短文作りなどを取り入れて日頃から漢字を使う活動を工夫しながら繰り返し指導をする。
 - 故事成語を使つての文作りなどの学習を工夫して興味を持たせ、意味や使い方について理解できるように指導する。
 - 様々な話し合いの場において、話し手の目的や意図をメモする活動を取り入れるようにして、相手の話の内容を聞き取ることができるように指導する。
 - 詩の朗読や読み聞かせ、詩を作るなどの学習を設定し、詩の内容や表現の工夫をとらえるよう指導する。
- 算 数
- 分数を具体物や図、数直線など視覚的に表し、分数を量的にとらえることができるよう指導を工夫する。
 - 図形の性質の理解が深められるように、作図や製作を取り入れた学習活動を工夫する。
 - 小数倍の意味の理解において、整数に置き換えたり、線分図や数直線に表すことを用いて、小数倍についての理解が深まるように指導する。
 - 基準量、比較量、割合の関係を児童自らが図で表現でき説明できることを重視して指導する。

4 質問紙調査の主な特徴（割合は5%刻みの概数で示しています）

(1) 生活習慣について

- ・「朝食を毎日食べていますか」の質問に対して、全くしていないと回答している児童はいなかったものの、あまりしていないと回答した児童が若干ではあるがいた。
- ・一日当たりのテレビやビデオの視聴時間は、「4時間以上」と回答した児童の割合は約15%で、全国及び県平均とほぼ同程度である。
- ・一日当たりのテレビゲーム（携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしている時間は、1時間以上（4時間以上、3～4時間、2～3時間、1～2時間の合計）と回答している児童は約50%で、全国及び県とほぼ同程度である。
- ・「普段（月～金）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」の質問で、1時間以上（4時間以上、3～4時間、2～3時間、1～2時間の合計）と回答している児童の割合は約25%で、全国及び県平均より高い。
- ・携帯電話やスマートフォンを持っていないと回答した児童の割合は約35%で、これは全国及び県平均より約10%少ない。つまり、持っている児童の割合が全国及び県平均よりも高い。

(2) 学習に対する関心・意欲・態度について

- ・「国語の勉強は好きですか」の質問に対して、「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」（以下、「肯定的な回答」と記す）と回答している児童の割合は約70%で、全国及び県平均より10%ほど高い。
- ・「国語の勉強は大切ですか」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は約95%で、県平均とほぼ同程度で、全国平均よりやや高い。
- ・「算数の勉強は好きですか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は約70%で、県平均とほぼ同じで、全国平均よりやや高い。
- ・「読書は好きですか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は約70%で、全国平均とほぼ同じであるが、県平均よりやや低い。

(3) 家庭学習について

- ・「家で、自分で計画を立てて勉強をしますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は約70%で、県平均よりやや高く、全国平均より10%ほど高い。
- ・「家で、学校の授業の予習をしていますか」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は約60%、また「授業の復習をしていますか」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は約80%で、それぞれ全国及び県平均より15%～25%ほど高い。

(4) 地域との関わりについて

- ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は約75%で、全国より10%ほど高いが県平均より若干低い。

(5) 道徳性に関して

- ・「学校のきまりを守っていますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は95%以上で、県平均及び全国平均よりやや高い。
- ・「友達との約束を守っていますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は95%以上で、全国及び県平均より若干高い。
- ・「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、「当てはまる」が約85%、「どちらかといえば当てはまる」が約15%、合計100%となっており、すべての児童が肯定的な回答をしている。
- ・「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は約85%で、県平均よりやや高く、全国平均より10%ほど高い。
- ・「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は約85%で、県平均及び全国平均よりやや高い。

5 質問紙調査からの改善点

- ・「早寝・早起き・朝ご飯」を基に、基本的な生活習慣の確立について各家庭と連携して取り組む。
- ・読書に親しむ児童を一層育てるため、朝読書や家読活動を一層推進していく。
- ・自己肯定感の醸成や、意欲の向上を重視して学校と家庭と共通理解を図りながら、連携して取り組む。
- ・携帯電話やスマートフォンを使っている時間が長く、生活リズムの乱れや家庭学習などに影響を与えていることも考えられるので、家庭と連携して早急に改善を図るように努める。
- ・否定的に回答している児童について、問題点を明らかにし改善していくように、家庭と連携して取り組んでいく。
- ・児童一人一人の状況をきめ細かく把握し、児童理解に基づいた学習指導・生徒指導に努める。